

令和 6 年度西成区運営方針自己評価 説明用資料

令和 7 年度西成区区政会議
第 1 回こども部会
令和 7 年 6 月 5 日

令和6年度 西成区運営方針経営課題における具体的取組

経営課題	主な戦略	具体的取組	部会
①子どもの夢が広がるまち	(1)子どもが健やかに成長できるようにする	・西成区こども生活・まなびサポート事業 ・外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業 ・学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業 ・基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール) ・西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾) ・発展型学習支援事業 ・プレーパーク事業 ・障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業	こども部会
	(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる		
	(3)親子が安心して暮らすことができるように支える		
②人と人がつながりにぎわうまち	(1)住みたいまち、行ってみたいまちにする	・西成区魅力発信事業 ・地域コミュニティ支援事業 ・緑化推進事業 ・区における人権啓発推進事業 ・西成区地域福祉計画推進事業 ・西成版サービスハブ構築・運営事業	にぎわい部会
	(2)地域の活動を支えてつながりをつくる		
	(3)誰もが活躍して輝けるまちにする		
③みんなが安心して暮らせるまち	(1)大規模災害等に備えた体制をつくる	・地域防災活動事業 ・防犯対策事業 ・自転車等安全利用啓発事業 ・空家等対策推進事業 ・あいりん地域環境整備事業(巡回・啓発等) ・結核対策事業	安全あんしん部会
	(2)行政と地域住民が連携して防犯・安全対策を行う。		
	(3)あいりん地域の環境改善事例を広げていく		

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる

西成区こども生活・まなびサポート事業

5予算額

82,485千円

6予算額

147,859千円

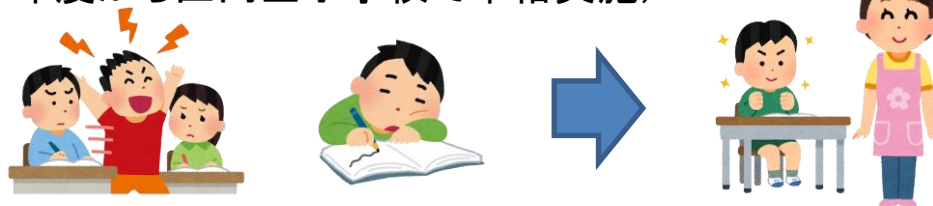
目的

サポートが必要な児童生徒に対して、寄り添い型の支援(遅刻・不登校の対応、学習姿勢を向上させるための支援等)を行うサポーター等を配置し、学びの場への定着を図る

取組実績

- ・児童生徒や学校の実情に合わせて、電話や家庭訪問などにより児童生徒の登校支援等を行った。
 - ・区内全中学校に教室に入りづらいこどもたちを丁寧に支援するための部屋の整備を行った。
 - ・幼稚園・保育所等と小学校のギャップから授業に集中できない児童に対し、寄り添い支援を行い、担任の話を集中して聞けるよう学習に向かわせるためのサポートを行った。
- (令和5年度に2校でモデル実施、令和6年度から区内全小学校で本格実施)

自己評価 今後の方針



- ・不登校在籍率は、概ね大阪市平均に近づきつつある。
- ・座って学習する、学習活動に参加するなど、児童に学習姿勢の改善も見られており、着実に定着が進んでいる。
- ・引き続き、区内全小中学校に家庭生活面で課題を抱える児童生徒の登校を促し、見守りを行う支援員を配置するとともに、区内1中学校で学校には行けるが教室に入りづらい生徒のための居場所支援員を配置し、また区内全小学校に学習に向かえるように支援をする学習姿勢向上支援員を配置する。

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる 外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業

5予算額

0千円

6予算額

9,934千円

目的

日本語で日常会話はできるが、学力に課題がある児童生徒を対象に、母国の学校では教わっていない内容や、日本語習得中に授業を受けたため十分に理解できていなかった内容などの補習を行うために放課後学習を実施し、教科学習を通した日本語指導を行うことにより、学習に使う日本語(学習言語)の定着と学力の向上を図る(小学校4年生～中学校3年生)

取組実績

・区内小中学校のうち2か所(岸里小、鶴見橋中)で児童生徒3名に対して講師1名を配置し、個別の学習指導を実施。

・参加者は2か所で合計32名

岸里小学校教室:小学生11名、中学生10名

鶴見橋中学校教室:小学生8名、中学生3名



自己評価 今後の方針

・参加者へのアンケートで、先生の教え方がわかりやすいと回答した児童生徒の割合が92%であり、また、学校のテストの点が上がったと回答した児童生徒の割合が55%であった。

・参加者の生活言語の習熟度及び個別の学力に合わせて講師の配置数を変更するなど、引き続きより手厚い支援に取り組む。

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる

学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業

5予算額

0千円

6予算額

7,533千円

目的

区内全中学校で、模擬テストを通じて、生徒個々人の苦手とする分野を分析し、また、苦手分野に応じた演習問題での反復演習をすることで、学力の向上を図る(中学校1年生～3年生)

取組実績

区内中学校生徒を対象に5教科(国語・数学・英語・社会・理科)の模擬テストを実施し、テスト結果から苦手分野を演習問題(事業者が作成したPDFデータ)を印刷して反復演習を行った。

①模擬テスト

(中3は5月)
(中1・2は12月)



②採点・分析



③演習問題

(復習)



学力向上



自己評価 今後の方針

- ・中学生チャレンジテストの西成区平均点の大阪市比が、昨年度より国語・英語が上昇。数学は横ばいであったが、3教科平均は大阪市平均に近づきつつある。
- ・苦手分野の演習問題を紙媒体で配布したため、生徒の学習履歴を教職員用端末にて確認できず、学校での活用状況に課題が残った。
- ・令和7年度から生徒が学習に容易に取り組めるよう、演習問題を学習者用端末を活用したデジタルドリルに変更し、生徒の学習履歴を教職員用端末にて確認し、取り組みが遅れている生徒には声掛けを行うなど生徒の学習頻度を高めていく。

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる 基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)

5予算額

8,322千円

6予算額

8,332千円

目的

区内全10小学校で、3・4年生を対象に、夏休み・冬休みや平日の放課後を利用し、小学校で塾等の事業者による課外授業を実施

取組実績

年間45時間を実施。うち、前期(6～8月)20時間(夏季休業中を中心に実施)
後期(9～2月)25時間(放課後の時間・冬休みを中心に実施)。参加者は257名。



自己評価 今後の方針

- ・令和6年度の学力経年調査において、ジャガピースクール参加者の国語で4割、算数で6割弱の児童が大阪市平均を超えた。
- ・引き続き習熟度別で講師の配置などに配慮を行い、誰でも学習できるよう実施していく。



経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる 西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾)

5予算額

251千円

6予算額

251千円

目的

区内小学5・6年生及び中学生を対象に、中学校校舎等の公共施設を活用して塾等事業者による
課外授業(補習)を実施

取組実績



参加登録者数(令和6年度)

小学生:北津守小学校 6名 たちばな会館 6名 玉出老人憩いの家 6名 合計 18名
中学生:鶴見橋中学校 28名 たちばな会館 18名 玉出老人憩いの家 21名 合計 67名

自己評価 今後の方針



- ・参加者へのアンケートで、学力があがったと答えた児童生徒や勉強の仕方が分かってきたと答えた児童生徒の割合が73%と68%であり、また、勉強時間が増えたと回答する児童生徒が75%いた。
- ・課題のある児童生徒が安心して参加できる居場所であり、また、学習への定着が苦手な児童生徒への対応として個々の習熟度に合わせた学習内容を継続して取り組む。

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる 発展型学習支援事業(西成ジャガピスクールアドバンス・西成特別進学塾)

5予算額

0千円

6予算額

16,293千円

目的

家庭の経済状況に関わらず本人が志望する水準の高等学校への進学ができるように、発展的な学習の機会を提供し、更なる学力向上をめざす(小学校5・6年生、中学校1～3年生)

取組実績

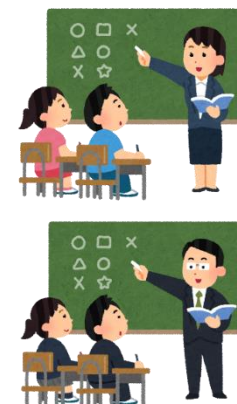
小学生:区内6か所で国語・算数・英語を年間100時間授業を実施。参加者は43名。

中学生:梅南中学校で国語・数学・英語を年間300時間授業を実施。参加者は31名。

中学3年生は、追加で社会・理科を長期休暇で40時間授業を実施。

自己評価 今後の方針

- ・中学生は、実力テストの1回目と3回目を比較するとほとんどの生徒の学力が上昇。
- ・小学5・6年生の1回目または2回目の実力テストと3回目の実力テストを比較すると学力が上昇した者の割合は5割弱にとどまった。
- ・令和6年度は入塾基準を設けなかったことで学力や学習意欲が様々な児童生徒が参加したことにより発展的な学習内容に絞った事業実施が出来なかった。令和7年度からは入塾テストを実施し、基礎学力が身についた児童生徒に対して発展的な学習内容を提供する。
- ・中学生にとって更なる学力向上のためには、家庭等で自ら反復演習等に取り組むことが重要であることから、授業で学習した内容の宿題を多く課し、家庭学習に取り組む時間を増やす。



経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(1)子どもが健やかに成長できるようにする プレーパーク事業

5予算額

16,735千円

6予算額

17,142千円

目的

子どもの生きる力を育む居場所として、子どもがやりたい、遊びたいと思うことを自由にできる冒険遊び場(プレーパーク)を実施

取組実績

プレイス型(にしなりジャガピーパーク)

〈1日平均来場者数〉 59人

どろんこ遊びの様子



〈場所〉

区内もと小学校、区内公園など

〈開催〉

土日祝を中心に年間54日

〈実施内容〉

「あそび場」「まなび場」「たまり場」を実施

体験型(ジャガパーわくわくクラブ)

〈1日平均来場者数〉 109人

昆虫しようぜ!の様子



〈場所〉

区内小中学校、区内公園など

〈開催〉

長期休暇を中心に年間18日

〈実施内容〉

体験活動により子どもの学習意欲や関心を積極的に刺激する内容のイベントを実施

自己評価 今後の方針

- ・プレイス型について、夏場の暑さの影響もあり、1日平均来場者数は目標の120人に届かなかった。また、令和6年度から開始の体験型については、周知不足もあり目標に少し届かなかった。
- ・来場者アンケートでは満足度98%、区内の子育て環境に好印象を持つ割合も85%であり、子育てしやすい環境づくりのイメージ向上に寄与していると考えられる。
- ・プレイス型について、令和7年度より室内の冷房設備や屋外プールを備えたもと松通保育所を開催場所に追加。体験型では、区制100周年記念として子ども向けイベントも実施予定。さらに広報活動を強化して認知度の向上と定着を図る。

経営課題1 子どもの夢がひろがるまち(3)親子が安心して暮らすことができるように支える 障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業

5予算額

7,093千円

6予算額

7,703千円

目的

精神疾患や知的障がいがある子どもまたは親を支援機関等に繋ぐことによって虐待防止を図る

取組実績

対象者：支援機関等への繋ぎが必要と考えられる世帯。

①家庭訪問及び相談支援：令和6年度実績56件

相談支援等の実施により孤立化を防ぎ、家庭に引きこもらないよう取り組みを実施

②連続講座：令和6年度実績4人

③言語聴覚士による専門相談：令和6年度実績25人（相談回数39回）

④助産師による専門的家庭訪問支援：令和6年度実績15人



自己評価
今後の方針

- ・必要な支援に繋いだ全ての世帯に対して、安定して繋がりを維持できるよう支援した。
- ・引き続き事業を実施することにより、親の不安やイライラを軽減し虐待予防を図る。
- ・新規手帳取得者及び転入者に、気軽に相談できる窓口の紹介や専門相談の紹介を行う。